

2日後は「8月15日」。若い世代には、この日が何の日か知らない層も増えているという。76年前、日本が敗戦を宣言し、8年間に及んだ日中戦争・太平洋戦争にようやく終止符を打った日だ。

△4△

語ろう スポーツ

山田 雄一



高校野球取材のため、この日を甲子園球場で迎えることが多かつた。正午に試合を中断し、戦没者を悼んで一斉に黙祷する。「大会が開催できるのも平和だからこ

そ」と、そのつど再認識してきた。

夏の甲子園が昨年、コロナ禍で戦後初の中止となつたのに伴い、

ウンドで一緒に戦えました」と振り返る。大先輩の面影を胸に置いての力投だった。野球帽のひさしには、自ら黒々と書き込んだ渡辺さんの辞世の句があった。「わ

中。硬式野球部は7月、発足したての新チーム全員で足を運んだ。

中村投手が決勝戦まで全試合のほ

ぼすべてに完投した甲子園のウイ

ニングボール（勝利球）も展示さ

れ、「部員には先輩方が築かれた伝統を意識してほしいのです」と

OBでもある西角亮介監督（67）。

東京ドーム内の野球殿堂には、

全国レベルの学生野球などで活躍

した戦死者167人の「戦没野球人モニュメント」もある。長野県

関係と確認できる9人のうち諷訪地域の出身者は旧諷訪中（現諷訪清陵）の平林馨さん、諷訪蚕糸の

飯島建男さん、御子柴長雄さんの

信州の戦没野球人について丹念に調べたいと願うのだが、歳月の経過もあって思うに任せない。事

情に詳しい方、関連資料をご存知の方は山田（携帯電話090-3

080-3090）までご連絡くださると大変ありがとうございます。

（スポーツジャーナリスト）

面影残す戦没野球人

の招待試合で延長引き分け。「甲子園に初出場だ」と意気込むチ

ムの4番打者は、県予選の直前に入った「晴れ舞台は幻」の知らせに大泣きしたという。

渡辺さんは卒業後、プロ野球の

朝日軍に入団する。しかし、公式

戦にわずか2試合出場で陸軍に入

隊。やがて特攻隊の一員として戦闘機で出撃し、沖縄の戦地で自

の鑑賞に同席させてもらつた。

「渡辺さんは戦争で野球を奪わ

れ、さらに命までも奪われた。野

球ができるのは当たり前と思いがちだが、決してそうではないので

す」と竹峰慎一監督（42）は説く。今年はベスト8を前に敗れた。

県の学校出身者は6人で、渡辺さんと松本商業（現松商学園）の4人、もう1人は諷訪蚕糸（現岡谷工業）が1930年夏の甲子園で準優勝したときのエース、下諷訪町出身の中村三郎さんだ。

岡工の創立110周年記念展「製糸業と諷訪蚕糸野球」が岡谷蚕糸博物館で11月14日まで開催